中国の「悪女」たち　呂后・趙飛燕・武則天・楊貴妃

http://www.geocities.jp/cato1963/20180508waseda.html

第２回　平成３０年５月１５日 講師　加藤　徹

漢の趙飛燕：平安時代の日本文学へも影響

　ポイント

★成帝は、「性交死」の疑いが記録として残っている中国史上最初の天子であり、歴代の皇帝の反面教師となった。

★趙飛燕は皇后までのぼりつめたが、出自は低かった。漢代の皇帝は、母がたの家柄はあまり気にしなかった。その理由は？

★趙飛燕にまつわる説話は、平安時代の日本文学にも影響を与えた。

　　あまつかぜ　雲のかよひぢ　吹きとぢよ

　　乙女のすがた　しばしとどめむ

僧正遍昭(816-890)

★ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典の解説

趙飛燕　ちょうひえん　Zhao Fei-yan; Chao Fea-yen

　中国，前漢の成帝 (在位前 33～7) の皇后。庶民の出身。歌舞に巧みで，成帝の目に止り，女官となり，のち皇后となった。妹昭儀も召され，姉妹で成帝の寵を争ったという。平帝のとき，王莽の上奏で庶人に落され，自殺した。この姉妹を描いた『趙飛燕外伝』は六朝時代の小説で，日本の平安時代の宮廷女流文学者に広く読まれた。

★日本大百科全書(ニッポニカ)の解説

趙飛燕　ちょうひえん（？―前1）

　中国、前漢末期の皇帝である成帝（在位前32～前7）の皇后。卑賤(ひせん)の生まれから身をおこして陽阿主(ようあしゅ)に仕え、そこで歌舞を習得し、偶然陽阿主の家を訪れた成帝の目に留まって妹とともに後宮入りし、ついには皇后となった。しかし前漢王朝きっての放恣(ほうし)な皇帝が、ある夜突然死去したために、成帝とその夜をともにした妹に嫌疑がかかり妹は自殺に追い込まれてしまう。やがて宮廷内で王莽(おうもう)の勢力が伸張すると、飛燕もただの庶人に格下げされて、妹の後を追う。このように卑賤の身から一転して後宮の栄華をほしいままにし、最後には凋落(ちょうらく)の道をたどる趙飛燕姉妹の波瀾(はらん)の生涯は、やがて文学作品『趙飛燕外伝』となった。この作品は、彼女の血縁者から直接聞き取りの形で書き上げられたと伝えられるが、実際には後世の偽作とされる。［桐本東太］

★前漢の成帝と趙姉妹

　前漢の第11代皇帝・成帝(前51年～前7年)と、皇后・趙飛燕、その妹・趙昭儀(後世「趙合徳」の名前で呼ばれる)の関係は、正史『漢書』や稗史(はいし)『趙飛燕外伝』によって、後世に大きな影響を与えた。

〇夏目漱石『文学論』序「余は少時好んで漢籍を学びたり。之を学ぶ事短かきにも関らず、文学は斯くの如き者なりとの定義を漠然と冥々裏に左国史漢より得たり。」

　※「左国史漢」=漢文の歴史書『春秋左氏伝』『国語』『史記』『漢書』のこと。

★日本大百科全書(ニッポニカ)の解説

折檻　せっかん

　厳しくしかったり、責めさいなむこと。原義は欄檻（手すり）を折るという意で、力をもって君主などを強く諫(いさ)めることをいった。中国、前漢の元地方官の朱雲が、成帝の師で安昌(あんしょう)侯となった姦臣(かんしん)張禹(ちょうう)を斬(き)るように上申したところ、帝は「官吏が上役をそしり、師傅(しふ)を悪くいうのは死にあたる罪だ」と、烈火のごとく怒った。しかし朱雲は屈することなく、彼を引き立てて連れ出そうとする役人を払いのけ、宮殿の欄檻によじ登り、これを折ってしまった。のちのちも帝はこの欄檻を直さず、朱雲の諫言(かんげん)の記念とした、と伝える『漢書(かんじょ)』「朱雲伝」の故事による。［田所義行］

★『漢書』卷九十七下 外戚傳第六十七下より

(要約)漢の成帝の皇后となった趙飛燕の出自は、いやしかった。彼女は宮中の雑役の夫婦の子だった。生まれたとき、両親は育てるつもりがなく、放置した。三日間放置しても生きていたので、育てられた。その後、皇族の陽阿主の家で、歌手兼ダンサーとして仕込まれ、「飛ぶツバメ」という芸名を名乗った。

　漢の成帝は、おしのびで出かけて遊ぶことを好んだ。成帝は、趙飛燕を気に入り、後宮に入れた。のちに飛燕の妹(後世の伝承では「趙合徳」と呼ばれる)も後に後宮に入れた。この美人姉妹は、成帝の寵愛を独占した。

　成帝にはもともと許皇后がいたが、廃されていた。成帝は周囲の反対意見をおしきり、出自がいやしい趙飛燕を皇后とし、その妹を昭儀とした。やがて妹は、姉よりも皇帝に愛されるようになった。ただ、姉妹は十年余りも成帝の寵愛を得たものの、結局、成帝の子を産めなかった。

　成帝は健康だったが、綏和2年3月18日(西暦に換算すると前7年4月17日)の朝、起床後にものが言えなくなり、その日のうちに亡くなった。民間では、趙昭儀のせいだ、という噂が広まった。成帝の生母である孝元皇太后（王政君）は、一族の王莽(後に皇帝の位を簒奪する)らに命じて真相を調査させようとした。趙昭儀は真相を語らぬまま自殺した。

　成帝には実子がいなかった(隠し子説、あり)。成帝の次には、趙飛燕の後押しもあって、哀帝が即位した。哀帝は、寵臣・董賢との「断袖」の故事で有名である。前7年に哀帝が25歳の若さで崩御すると、趙飛燕は王莽との政争に負けて失脚し、追い込まれて自殺した。

〇加藤徹が思うに、成帝には成帝の言いぶんがあったろう。外戚の横暴に悩んでいたので、わざと出自がいやしい趙飛燕を皇后にしたのだ、とか。……

(出典)孝成趙皇后、本長安宮人。初生時、父母不舉、三日不死、乃收養之。及壯、屬陽阿主家、學歌舞、號曰飛燕。成帝嘗微行出。過陽阿主、作樂、上見飛燕而説之、召入宮、大幸。有女弟復召入、倶為婕妤、貴傾後宮。

　許后之廢也、上欲立趙婕妤。皇太后嫌其所出微甚、難之。太后姉子淳于長為侍中、數往來傳語、得太后指、上立封趙婕妤父臨為成陽侯。後月餘、乃立婕妤為皇后。追以長前白罷昌陵功、封為定陵侯。

　皇后既立、後寬少衰、而弟絶幸、為昭儀。居昭陽舎、其中庭彤硃、而殿上髹漆、切皆銅沓黄金塗、白玉階、壁帶往往為黄金釭、函藍田璧、明珠、翠羽飾之、自後宮未嘗有焉。姉弟顓寵十餘年、卒皆無子。

　末年、定陶王來朝、王祖母傅太后私賂遺趙皇后、昭儀、定陶王竟為太子。

　明年春、成帝崩。帝素強、無疾病。是時、楚思王衍、梁王立來朝、明旦當辭去、上宿供張白虎殿。又欲拜左將軍孔光為丞相、已刻侯印書贊。昏夜平善、郷晨、傅褲襪欲起、因失衣、不能言、晝漏上十刻而崩。民間歸罪趙昭儀、皇太后詔大司馬莽、丞相大司空曰：「皇帝暴崩、群衆言雚嘩怪之。掖庭令輔等在後庭左右、侍燕迫近、雜與御史、丞相、廷尉治問皇帝起居發病状。」趙昭儀自殺。

(以下略)

参考　「腹上死というと挿入中の死亡を想像しがちですが、発作が起きるのは行為後が大半で、特に心臓系疾患の場合は行為を終えてから数時間後のケースが多い。いわゆる“腹上死”のイメージに近いのは脳血管系の場合で、性交中や射精直後に突然意識を失うことがあります」（上野氏）

　文中の「上野氏」は、上野正彦氏。出典は、NEWSポストセブンの記事「腹上死　９割以上が男性、発作が起こるのは行為後が大半」2017.11.05 16:00

　https://www.news-postseven.com/archives/20171105\_624978.html

★『趙飛燕外伝』より

　趙昭儀(皇后・趙飛燕の妹)がある夜、酔って、ふだんの7倍の量の媚薬を成帝に飲ませた。その夜は大いに盛り上がったが、翌朝、成帝は死んだ。官憲は調査しようとした。趙昭儀は「ベッドの中のことを官憲にさらけだすことなぞ、どうしてできましょう」と言い、胸をたたいて「陛下はどうして逝かれたのですか」と叫び、血を吐いて死んだ。

(出典)昭儀輒進帝、一丸一幸。一夕、昭儀酔進七丸、帝昏夜擁昭儀居九成帳、笑吃吃不絶。抵明、帝起御衣、陰精流輸不禁、有頃、絶倒。挹衣視帝、余精出湧、沾汚被内。須臾帝崩。宮人以白太后。太后使理昭儀、昭儀曰「吾持人主如嬰児、寵傾天下、安能斂手掖庭令争帷帳之事乎」。乃拊膺呼曰「帝何往乎」。遂欧血而死。

★大辞林 第三版の解説

はんしょうよ【班婕妤】

〔「漢書外戚伝」より。「婕妤」は女官の名〕 中国、漢の女官。成帝の寵愛を得たが、のちに帝が趙飛燕姉妹を寵愛するようになったため、身をひいて太后に仕えた。その時自ら悲しんで「怨歌行」を作った。後世、寵愛を失った女性を歌った詩に登場することが多い。班女。生没年未詳。

〇世阿弥の能『班女』(はんじょ)は班婕妤の故事をふまえた謡曲。

　以下、<http://www.asahi-net.or.jp/~sg2h-ymst/yamatouta/sennin/kansi.html>　より引用(平成３０年五月十五日閲覧)　　【影響を受けた和歌の例】

手もたゆくならす扇のおきどころ忘るばかりに秋風ぞ吹く（相模『新古今集』）

手なれつる閨の扇をおきしより床も枕も露こぼれつつ（藤原定家『拾遺愚草』）

うつり香の身にしむばかり契るとて扇の風のゆくへ尋ねば（同上）

なれきつる扇の風もいかならむ夕べの木々に声はつる蟬（同上）

旅枕しろき扇の月影よなれてくやしき形見なりけり（同上）

なれなれて秋にあふぎをおく露の色もうらめし閨の月影（俊成卿女『新勅撰集』）

手にならす扇の風も忘られて閨もる月の影ぞすずしき(藻壁門院但馬『続拾遺集』）

手にとらば月をあげてやたとへましおき忘れにし秋の扇に（正徹『草根集』）

秋風に忘れし閨のあふぎをも月にたぐへて又やとらまし（三条西実隆『雪玉集』）

★『趙飛燕外伝』より

　妹に成帝の寵愛を奪われた姉の皇后は、悲しみにくれ、馮無方(ふう・むほう)という臣下と不倫関係に走った。ある日、太液池(たいえきち)で、宴会が開かれた。広大な庭園の中の人工の池に、千人乗りの巨船を浮かべた豪華な遊びだった。皇后は、昔取ったきねづかで、船の上で踊った。成帝が壷を叩き、馮無方は笙を吹いて伴奏した。皇后は「いっそ仙人になって飛んでゆきたい」という旨の歌を歌いつつ袖をひるがえして軽やかに舞い、風に乗って飛んでゆきそうに見えた。成帝はあわてて「無方よ、皇后が飛んでゆかないようにおさえてくれ」と命じた。風がおさまると、皇后は「私は仙女になって飛び去りたいのに、陛下はお許しくださらないのですね」と泣いた。成帝は皇后をいっそういとおしく思い、無方に千金を与え、皇后の寝室に出入りさせた。後日、成帝のお手つきになった宮女たちの中には、スカートのひだをたたんでひも状にしたファッションを作るものがあり、それを「仙女になるのを引きとどめられたスカート」と名付けた。

〇『趙飛燕外伝』の全訳は、明治書院の『中国古典小説選１』(2007)で読めます。

（出典)歌酣、風大起、后順風揚音、無方長吸細嫋与、相属后裙髀曰「顧我、顧我」。后揚袖曰「仙乎、仙乎、去故而就新、寧忘懐乎」。帝曰「無方為我持后」。無方舎吹持后履。久之、風霽、后泣曰「帝恩我、使我仙去不待」。悵然曼嘯、泣数行下。帝益愧愛后、賜無方千万、入後房闥。他日、宮姝幸者、或襞裙為縐、号曰「留仙裙」。

〇李白：七言絶句「清平調」三首　其の二

一枝濃艷露凝香

雲雨巫山枉断腸

借問漢宮誰得似

可憐飛燕倚新粧

イッシのノウエン、つゆ、かおりをこらす。

ウンウフザン、むなしくダンチョウ。

シャモンすカンキュウ、たれかにるをえたる？

カレンのヒエン、シンショウによる。

　唐の詩人・李白は、玄宗皇帝と楊貴妃の前に召されたとき、楊貴妃の美しさを漢の趙飛燕に喩え、それが一因となって宮廷を逐われた。この漢詩については「中国の四大美女」および「「唐詩五七絶譜」清傅士然伝」参照。

以上